

展示会

The Imperial Library and the Dawn of Japanese Children's Books

# 子ども本の夜明け

## 帝国図書館展

2024  
3.26火 - 6.23日

【会場】 国際子ども図書館  
レンガ棟3階 本のミュージアム

【開館時間】 9時30分～17時

【休館日】 毎週月曜日、国民の祝日・休日(こどもの日は開館)  
毎月第3水曜日(資料整理休館日)

入場  
無料



展示会場  
撮影OK!

※一部の展示資料は  
撮影できません。

International Library of Children's Literature  
国立国会図書館 国際子ども図書館

上から「こがね丸」(少年文学 赤巻) 巖谷小波 著、大橋新太郎 編 博文館 1891、「赤い鳥」4(6) 1920年6月号  
赤い鳥社、「アリス物語」(小学生全集28) 菊池寛、芥川龍之介 訳、平沢文吉 絵 興文社 1927、「君たちはどう  
生きるか」(日本少国民文庫4) 吉野源三郎 著、脇田和 絵 新潮社 1949

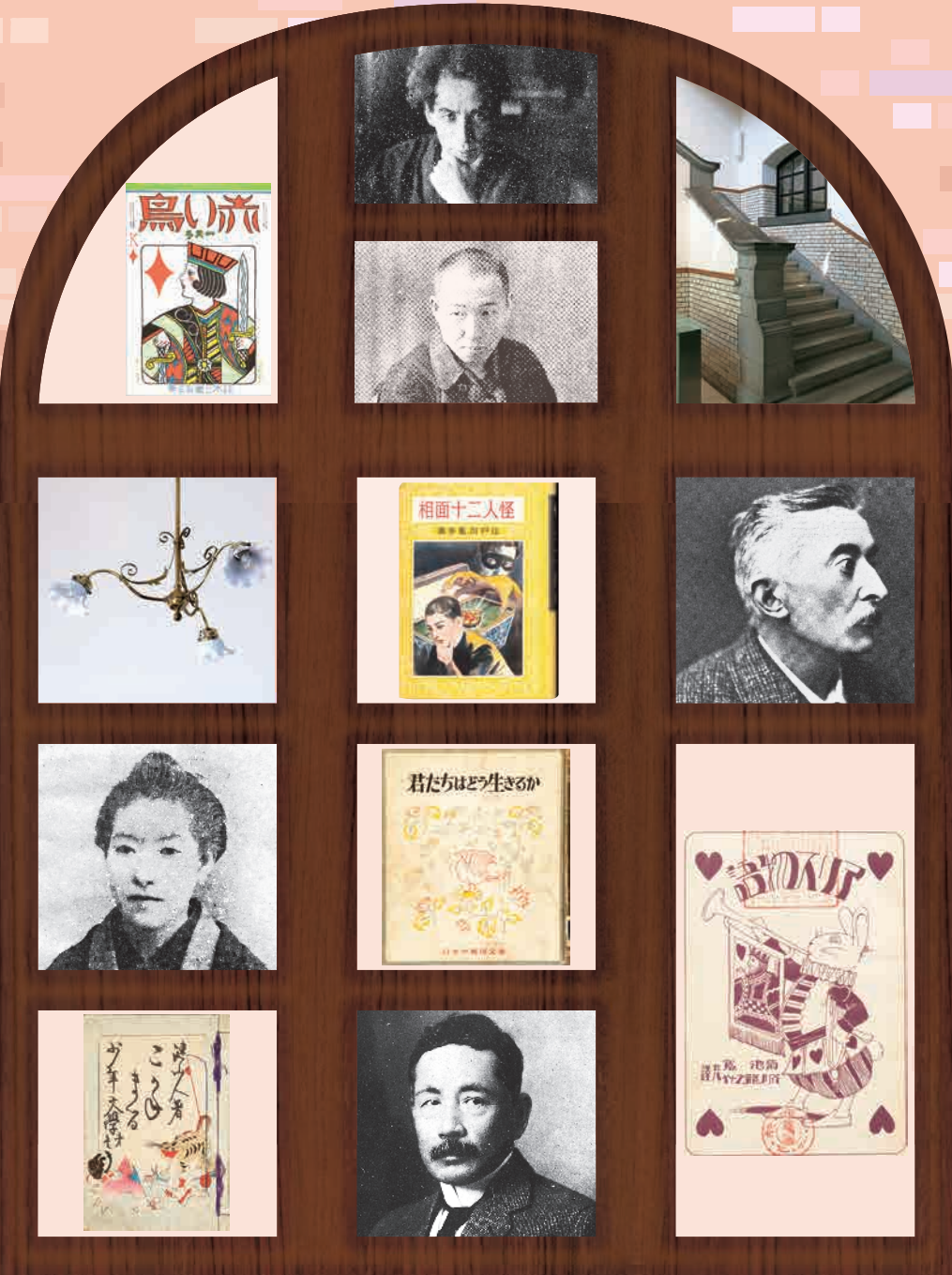
# 子ども本の夜明け

## 帝国図書館展

The Imperial Library and the Dawn of Japanese Children's Books



※一部の展示資料は撮影できません。



この展示会では、帝国図書館とその前身である東京図書館の時代に産声を上げた、子ども本の歩みをたどります。

明治維新から20年を経た1880年代、子どもを対象とした雑誌が複数誌創刊されました。それを皮切りに、日本の子ども本の興隆が見られました。大正期に入ると、芸術性の高い児童雑誌『赤い鳥』が創刊され、童心文学の土台となりました。しかし、戦前の昭和前期には、子ども本は戦意高揚の道具として利用されました。

このような近代日本の子ども本の歩みをたどりつつ、子ども本の作者たちと帝国図書館とのエピソードについても紹介します。名立たる文学者たちの子ども本への貢献、帝国図書館との関わりを読み取っていただけたらと思います。

### ◆ 関連イベント

スタッフによるギャラリートーク(展示解説)を予定しています。詳細は国際子ども図書館ホームページ等で順次お知らせします。

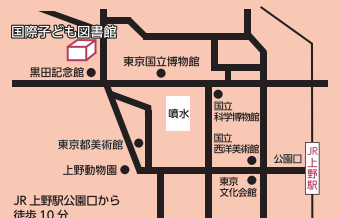
(書影) 右列から『アリス物語』(小学生全集 28) 菊池寛, 芥川竜之介 訳, 平沢文吉 絵 興文社 1927、『怪人二十面相』江戸川乱歩 著 大日本雄辯會講談社 1936、『君たちはどう生きるか』(日本少年国民文庫 4) 吉野源三郎 著, 脇田和 絵 新潮社 1949、『赤い鳥』複製版 14(1) 1925年1月号 日本近代文学館 1968、『こがね丸』(少年文学 少年) 巖谷漣(小波) 著, 大橋新太郎 編 博文館 1891 (肖像) 右列から 小泉八雲, 芥川龍之介, 宮沢賢治, 夏目漱石, 樋口一葉

International Library of Children's Literature  
 ILCL 国立国会図書館 国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49 TEL 03-3827-2053 (代表) <https://www.kodomo.go.jp/>

国立国会図書館  
 National Diet Library, Japan

リサイクル適性(A)  
 この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



JR 上野駅公園口から  
 徒歩 10分